

狛江市長
松原 俊雄 様

防災フェアでの自衛隊による「戦争体験」への
「抗議と申入れに対する回答」への再申入れ

防災フェア自衛隊参加に関する私たちの抗議と申入れに回答（狛総安発第 000354。以下、回答）をありがとうございます。しかし、回答は抗議に対して直接触れずに、申入れに対してはあいまいです。

つきまして、再度、以下の質問への回答をお願いいたします。

1. 回答でも防災に対して「一人ひとりの自助に関する基礎的な知識・経験の習得促進を主な目的」としています。自衛隊のブースでおこなった「戦闘機・戦車の操縦と銃撃、パラシュート降下体験のヴァーチャルリアリティ体験」は、明らかに防災訓練とは無関係との私たちの指摘を率直に認めるべきではないでしょうか。その点での見解をお聞きます。
2. 回答では、参加機関に「普段はどのような活動を行っているのか等を市民の皆様にPRいただく機会でもある」として、戦闘訓練をあたかも正当化していますが、参加した自衛隊は迷彩服を着用し、指摘した事項しかブースでは実施していなかったと理解しています。つまり、「防災」とは名ばかりで、子ども達に「戦争体験」をさせるために参加したとしかいいようがありません。この点でも自衛隊を参加させたことは誤りであったことを率直に認めるべきではないでしょうか。見解を伺います。
3. 「狛江市平和都市宣言」を市議会一致で発している市として、子ども達にVRといえども「戦闘訓練」「戦争体験」をさせるようなイベントをして良いのでしょうか。見解を伺います。
4. そもそも、自衛隊は安保法制により集団的自衛権を保持し、米軍と統一指令部を設け、敵基地攻撃能力を持ちつつあります。明白な憲法違反であるとともに、専守防衛に徹せよとの世論は約7割です（全国世論調査 2024/8/3。日本世論調査会）。そうした現状を踏まえれば、政府に安保法制を破棄し大軍拡を止めるよう要請するべきではないでしょうか。少なくとも憲法違反の疑いがある自衛隊に対しては宣伝や隊員募集に協力するべきではないと考えますが、市長としての見解を伺います。
5. 以上、1 項～3 項は狛江市としてもそう難しいこととは思えず、直ちに反省をして、今後の防災フェアには自衛隊を呼ばないことを決定していただけるものと期待をしています。

2025年1月10日

原発と気候危機を考える会
連絡責任者 西尾真人
和泉本町 3-35-8
03-3480-7477
manishio@jcom.zaq.ne.jp